



高校野球 始球式に臨む

7月16日(水) 第107回全国高校野球選手権 和歌山大会にて本校高等部2年の福永佐恭さんと福永佑恭さんが始球式に臨みました。



始球式に出場することが決まってからは自立活動の時間を利用し、ボールを投げる練習をしました。

学校で何度もリハーサルをして、いよいよ本番です。



16日第2試合は智弁和歌山高校と有田中央・貴志川・和歌山南陵の3校連合チームとの決戦でした。

グラウンドへ入り、マウンドに向かう時には智弁和歌山高校の応援団からエールが送られました。

会場の雰囲気を感じ、緊張しながらも一人ずつ捕手に向かってボールを投げることができました。

終わった後は緊張がほぐれ満面の笑顔でした。



翌日 朝日新聞 和歌山版に二人の奮闘の様子が掲載されました。

16日第2試合は、県立南紀はまゆう支援学校(上富田町)高等部2年の双子が始球式に臨んだ。

兄の福永佐恭さんと、弟の佑恭さん。普段はともに車いすで生活しているが、この日は、同校教師が1人ずつ付き添い、大きな車輪付きの立位保持具「ラビット」に乗ってグラウンドへ入った。三塁側の智弁和歌山応援団からエールを送られる一幕もあった。

2人はマウンド手前に陣取り、球審の合図でそれぞれ捕手に向かってボールを投げた。「球場のみなさんが応援してくれたことは、2人とも分かっていたと思います」と母親の様子さん。

双子の兄弟が始球式

福永さんラビット乗り

始球式の参加が決まり、学校で投球練習を重ねてきた2人。家に帰ると、「練習、頑張ってきたよ」と様子さんや父親の篤人さん(54)に報告した。始球式は緊張した面持ちだったが、終わった後は表情が和らぎ、笑みがこぼれた。

篤人さんは「同世代の高校生と同じステージでかわれたことに感無量です」と話した。

(神元敦司)

福永佐恭さん 福永佑恭さん

52